

— 高校生の下着 —

○石井 由香 高野倉 睦子 長野 智子 (昭和学院短大)

〈目 的〉

人間生活の多様化とともに衣服の機能は複雑化してきている。衣服に求められる機能は、時代、社会、文化の変遷に伴って変化し、この影響は、下着の着用意識に関しても及んでいる。昨年の48回大会では、男性の下着と実態について50歳代より20歳代の男性を対象に調査し、その結果について報告した。今回は男子高校生を対象に同様の調査を行い、昨年の結果と対比しながら考察した。

〈調査方法〉

東京近郊に在住の男子高校生197名、山形県在住の男子高校生149名、合計346名を対象とし、配票留置法により1996年10月にアンケート調査を実施した。調査内容は、昨年の調査と同様に、下着の着用意識に関する22項目、服装の規範意識に関する19項目、下着の着衣実態に関する10項目である。

〈結 果〉

1) 高校生が下着で最も多く着用しているものは、上衣では袖無しと半袖であり共に約27%を占め、また、下衣ではトランクスであり約81%を占めた。その着用理由は、着心地がよい、脱ぎ着がしやすいという機能性に関するものが多かった。2) 以前は着用したが現在は着用しないものについては、ランニング、ブリーフが多い傾向にあった。3) 因子分析により下着の着用意識に関する基本的因子として、趣味志向、進歩的感覚、習慣性、衛生性の4因子が抽出された。